

お寺の俯瞰写真を撮影しました！ ～敬念寺ホームページ開設にむけて～



高さ16Mのバケットリフト車から撮影した敬念寺全景 (27.8.5)
【俯瞰(ふかん) 写真: 上から見下ろして撮った写真】



発行所
岡谷市郷田一丁目6番3号
TEL(0266)22-2524
金松山 敬念寺
発行
敬念寺門信徒会
編集
会報組織委員会

朝7時はみ仏さまや
彼(か)の人との
出会(であ)いの時間

小僧の目

▼浄土真宗には、葬儀に「清め塩」は使わない。線香は香炉に合わせ、折って寝かせる。など「タブーが多い」ですね、とよく聞きます▼その中で「位牌・過去帳は礼拝の対象ではありません」ということについて考えてみたいと思います▼「過去帳」は先祖代々の方々の法名・命日、俗名・続柄などを一冊に記録し過去帳台に載せて日々お世話(お給仕)するもの。「位牌」は、その中の一人を取り出し刻字、記名したもの。それが多くなれば、「操り出し位牌」に納め仏壇に置くものです▼仏壇は故人や位牌のためのものでなくご本尊、阿彌陀様を安置するもので、「お内仏」とも言い、それを正式に極楽浄土として表したものがお寺の本堂内陣なのです▼生前中、真実の教えを聴聞して本願を信じ念仏する者は、生涯を終えると「即得往生」と言って、直ちに、浄土に往生させていただき正定聚の位とならせていただきます、浄土に往生し阿彌陀様に抱かれたのですから、ご本尊の阿彌陀様に礼拝するだけで十分なのです▼従って、他の宗派(お寺)のようにお位牌を中心に礼拝は致しません▼たとえ前からあったとしても、それは故人を偲び感謝するもので位牌に亡き人の「霊」がこもっているとは考えないからであります▼その証拠に浄土真宗のお寺には位牌堂や本堂に位牌壇がないことでもわかります▼昭和六年、ご労苦の中にこの地にお念仏の道場を開設しようと奔走した人々、昭和十六年以降終戦まで戦火に散った尊い命、生かしたくても生かせなかつた幼い命、昭和五十四年、新米住職を支えて下さった方々▼お寺の過去帳は無言ではありますが、そのすべてを物語ってくれる大切な「お宝」です。この機会にお仏壇を見直し、新しい年をお迎えしましょう。

釋 玄真

ご寺院行事

- 11月8日(日) 報恩講法要 前10:00
- 11月26日(木) 研修親睦旅行 前6:00
- ~27日(金) 本山・姫路城
- 1月1日(金) 元旦会(法要) 前7:00
- 1月16日(土) 御正當法要(新年初まいり) 前10:00

ご定例法話会

- 11月20日(金) 講師 増田廣樹先生 (茨城県)
- 12月20日(日) 講師 三寄靈証先生 (福井県)
- 1月20日(水) 講師 市川和也先生 (飯山市)
- 2月20日(土) 講師 西原竜哉先生 (千葉県)

いずれも毎月20日 夜7:00からです。

ファミリー参拝特集!

第三十二回ファミリー参拝が七月十一日(土)に行われました。好天に恵まれた初夏の夕べ、家族連れで参拝された皆さんが楽しいひと時をお寺で過ごしました。お勤めの前に、若院が企画した「棒クイズ」を家族で楽しみ、その後、讃仏偈によりお勤めをさせていただきました。境内では人気の流しソーメンや、綿あめ、ポップコーン、かき氷など用意され、楽しい輪投げもあり「お寺に子どもたちの声聞こえる」キッズサンガを象徴する行事となりました。



讃仏偈でおつとめ



「棒クイズ」に挑戦!できるかな?



子供に人気の綿あめ

第三十六回早朝連続参拝に 延べ六百人参加 (皆勤四十五人)

第三十六回目の早朝連続参拝が八月一日から十日間行われ、延べ六百人が参加。今年も皆さん熱心にお勤めされました。各地猛暑が報道された今夏でしたが、朝五時半は涼しく心地よい参拝です。

今年、ご住職により「浄土真宗のみ教え」より親鸞聖人のお言葉を味わう”をテーマにした法話を聴聞させていただきました。

親鸞聖人七百五十回大遠忌の節目に刊行された「浄土真宗のみ教え」を、普段日曜礼拝で拝読・拝聴させていただいていますが、今回は更に掘り下げて、七日間にわたってお話しされました。

二日目の日曜日は、昨年に続き本願寺布教使である長原真了先生(長野市善立寺住職)から「浄土をいただく人生」と題した法話を聴聞させていただきました。

また、七名の方々が感話を発表されましたが、今年は高校三年生の巻瀧君が登場し、アラスカ研修での体験を発表するなど、多彩な顔ぶれで、それぞれ味わい深い貴重なお話をお聞きすることができ、感銘を受けました。

感話を発表された皆さん

- 三日 清水 直哉様 (諏訪市)
- 四日 巻瀧 優也君 (岡谷市)
- 五日 堀 千春様 ()
- 六日 関野 逸子様 ()
- 七日 須坂つぎ江様 ()
- 八日 望月 富子様 ()
- 九日 堀川 隆志様 ()



長原真了先生のご法話 (27.8.2)

一敬念寺のあるべき姿の検討と対策(中・長期ビジョン)構築に向けて— No.3
「教化事業」「門信徒会財務体質健全化」等について検討を進めています!

平成二十六年年度から、「寺院の将来あるべき姿の検討と対策」として常任委員会で検討を行ってまいります。(前号・前々号参照)

今年度は、「敬念寺と門信徒会の中・長期ビジョンの計画検討、推進」の事業計画を四月の年次総会に提案し、承認されています。具体的に進めるため、検討項目を八項目に整理し、さる六月に分科会を設置して検討を始めました。

【検討八項目】

- ① 寺院根幹事項
- ② 寺の目指すべき方向
- ③ 「生涯聞法」の構築
- ④ 教化組織
- ⑤ 教化事業
- ⑥ 門信徒会財務体質健全化
- ⑦ 中期営繕計画
- ⑧ 門信徒の悩み・要望対応

【検討スケジュール】

検討を進め、年内に一定の方向性、あるいは構想をまとめたいと考えています。とりわけ、緊要度が高いと思料される項目(⑤⑥⑦)

⑧)については、来年三月までに具体的な計画等を策定し、年次総会に提案できればと考えています。

【分科会検討状況】

◆教化事業(⑤)
夏季教化事業リニューアル化にむけて、ファミリー参拝の内容・開催日等について検討。早朝連続参拝について検討。新規事業としてサマースクール(お寺に泊まる)実施について検討。

◆門信徒会財務体質健全化(⑥)

・一般会計の収入(漸減)、支出(漸増)の現状分析と中長期予測
・収入確保策として協力をお願いしている「年会費三千元以上」の取り組みの現状分析
・大型法要に備えた財務見直し(来秋から厳修・本山伝灯奉告法要門信徒懇志支弁方策、将来予測される敬念寺特別法要等)

◆中期営繕計画(⑦)

「営繕積立金」の現状分析、寺院保守営繕、補修費用の確かな準備方策

◎先に実施した全お世話人対象のアンケートなどを通じ、門信徒会財務について関心が高まっているところですが、右の検討内容のよりに、財務基盤の強化は喫緊の課題となっています。現状分析と共通に、考えられる対策等について慎重に検討しているところです。

(文責:千原、谷腰、鷹野原、白田)

今年も大勢の皆さんが参加されて早朝連続参拝が行われました。毎年参加され、今年も十日間皆勤された方に投稿していただきました。

早朝連続参拝に参加して

岡谷市 春日 千文

今年度は特別暑さ厳しい夏であったと思います。その中八月一日から十日までの早朝参拝、続ける覚悟で参加させていただきました。寝不足気味の顔を恥じつつも参拝できましたこと、さわやかな気持ちです。早朝の外気は、日中では味わうことのできない気持ちよさ、そして今まであまり見たことがなかった燕の群れが、電線をはさんで目の前で次々と燕返し、見事な宙返りに見とれてみると、まもなく群れをなして空高く飛び去りました。三日間華麗なる技を見せてくれた後、不思議にあの燕の群れは見られなくなりました。燕に「お念仏に早く行きなさい」と言われた気持ちです。

お寺では、早朝から大勢の役員の方々がお待ちくださり、普段ご無沙汰いたしております者には気恥ずかしいことでした。ご住職が挨拶の中で、連続参拝

が始まった経緯などについてお話しくださいました。また、法話で「凡夫」について話され、凡夫は私自身、命終わるその瞬間まで煩惱から離れられない、心と身体を悩ませ苦しみ続ける、凡夫は私のことと気づくことが御仏の救いとなる・・・と分りやすくお話しくださいましたが、今になると、実は理解できないことが多く、学ばなくてはいけないことに気づきました。

感話では、いろいろ大変な経験等なされ、それを自分の力で乗り越えられてご立派に生活されているご様子をお話しください、感激いたしました。

私の歳になりますと、忘れることも多く、ありがたいお話をお聞きし、心洗われる時をいただきましたのに上手く感想をまとめられません、素直な気持ちで参拝させていただければ良いのかと思っております。

連続参拝で心に沁みる法話と感話をお聞きできたことを幸せと感謝しております。

いろいろと学ばせていただき、また、学ばなくてはと思うことも沢山あることに気づかせていただきました。そして、お寺までの道すがら、何かと自然の移り変わりも感じる事ができ、充実した十日間となりました。感謝。

第四回早朝公開講座開催!

お寺から社会に情報発信するため開催されている公開講座は四回目を数え、さる六月二十八日開催されました。今回は「五一ワイン」副社長の林修様をお招きし、興味深い、貴重なお話をお聞きすることができました。

参加者には「桔梗ヶ原物語 林五一の生涯」の本がプレゼントされました。



法事は子や孫の都合に合わせて

おつとめしましょう!

法事は故人をご縁に家族(縦)はもちろん親族・親戚縁者(横)の皆さんとの絆を結ぶ大切な仏縁の場です。該当の年には丁寧におつとめしたいものです。

平成28年回忌表

(あなたのお家は?)

1周忌	平成27年
3回忌	平成26年
7回忌	平成22年
13回忌	平成16年
17回忌	平成12年
23回忌	平成6年
27回忌	平成2年
33回忌	昭和59年
37回忌	昭和55年
50回忌	昭和42年
100回忌	大正6年



敬念寺の法要や行事などで、必ずそのお姿をお見受けする、お寺になじみ深い方をご紹介いたします。中島さんは今年八十歳を迎えられご家族の皆さんから、傘寿を盛大に祝って頂いたところからです。中島さんとお寺とのご縁は、お母様の代からです。熱心に御聴聞に通われたお母様の影響で、お寺に足を運ぶようになりました。そのような中で、「ご聴聞」を頂くことが好きになり、数多くお寺

しょう しき
青 色
しょう こう
青 光
六十三回

熱い心で門徒推進活動に励む

中島 俊一 さん
岡谷市山下町

に通う内にご住職の勧めで、当時の壮年部に関わるようになりまし。また、毎日曜日朝の礼拝には家族揃って参拝されてきました。中島さんは十年間呉服屋で修業された後、呉服販売業を開業されました。

その後、時代の流れに順応し、「寝具のなかじま」を経営され今日に至っています。

家業の傍らご聴聞を頂く内に本山西本願寺の「中央教修」(昭和五十九年・第三十四回)を受けられ門徒推進員になられました。

以来長野別院にも通つてご聴聞を頂き、また仏教書も探し買い求めてみ教えを深められました。

そのような熱意を認められて、長野教区の門徒推進員連絡協議会会長を八年間も務められ、浄土真宗のみ教えを広く伝える努力をされてきました。が、「これからもお念仏の輪を広げること力を尽くしたい」との抱負を伺いました。

他に奉仕活動として、少年警察ボランティア補導員・市交通安全協会の副会長を務めるなど、幅広く尽力されています。

読書を趣味にされ、「今あるのは皆様のおかげです」と仰り、門徒推進に賭ける情熱に人一倍熱い心意気を感じました。

(滝川 記)

— 投稿ひろば —

胡桃さんのおばあさんは、八月二十一日にさいたま市で亡くなられ、ご火葬だけ済まされた後、二十五日に岡谷の敬念寺にて、大勢の親族の皆さんで葬儀を行いました。

大切な祖母を亡くして

さいたま市 喜多野胡桃(中学二年)



先日、祖母が亡くなりました。長い入院生活の末、六十一歳という若さで逝ってしまいました。私が幼い頃初孫だったこともあり、とても可愛がってもらいました。歩けるようになると、階段の上り下りに長い時間付き合ってくれたそうです。また、少し離れて住んでいた私に、電車を乗り継いでまで会いに来てくれたそうです。

そんな祖母が亡くなってしまいました。最初私は死というものをよく理解できていませんでした。ですが、身近な人を失い、悲しさを痛感しました。恩返しをしてあげたかったのに。祖母と一緒に過ごしているときに何も面倒を見てあげられなかったのに。後悔ばかり積もっていききました。そして、祖母のお葬式の日、住

職さんは「今、こうしてあなたたち孫や子供がいるのは、祖母の六十一年間があつたから」とおっしゃっていました。私はこの言葉に感動しました。私たちが今を生きているのは、祖母がいたから。祖母がいなかったら私はここにいない。そのことを強くかみしめると、涙が止まらなくなりました。お焼香や合掌の時、私は祖母に「ありがとう」という気持ちを伝えました。

もう、祖母と会えない、楽しく話せないと思うと、また涙がこぼれ落ちてきました。でも、祖母が望んでいるのは、きっと、私たちが一日一日を精一杯生きることだと思えます。私ができる恩返しは、頑張っている姿を見せること。祖母はまだ私の心の中には生きていくのだと信じて、毎日を明るく過ごしていきたいです。

「伝える」こと

郡山市 新井 彰平



中学校の恩師である金松先生から「敬念寺だより」に寄稿をとの依頼を受け、ふと「伝える」という言葉が頭に浮かびました。それは、両親の法事の度に先生より心温まるお話をいただいたからでし

か。私は、仕事柄いつも生徒には、学校は理解力・想像力・表現力を養うだけではなく、多くの人との関わりの中で、相手を敬う心と感謝の心を持つことが大切であることを伝えていきます。「伝えていく」ことは人としての大きな役割だと思っています。

子どもたちには、「みんなは将来子供を産み育てる人となり、そしてその子がまた子供を産む。それはあなたの教えが子供に伝わり、それが孫に伝わるということ。つまり、あなたの教えが未代まで繋がっていくのですから、周りの人たちの言葉や意見に耳を傾けて知識や経験を豊かにして欲しい」と話しています。私自身もまた、今は亡き両親からの教えを心に刻みながら生活し、遠くふるさとに想いをはせております。

これからの子どもたちには、急速に進むグローバル社会を生き抜くために必要な知性、人格、情緒そして社会的なスキルを身につけることが求められています。これは新しいことではなく、実は昔から伝えられていることです。今から二十三年前前の父親の葬儀の時に、敬念寺さんの門の入口にあった「今日の一言」に、「ころんでも、ころんでも地球の上」という言葉が書かれていたのを思い出します。この言葉は個人や一国家の考えだけではなく、地球を規模とした考え方や表現力を表しているの

だと思えます。

グローバル社会に生きるための最も大切な考え方に繋がっているのではないのでしょうか。

伝えなければならぬ、「生きるための貴重な教え」は身近にあります。ひよつとすると、幼いときから言われてきた「よく見る」「よく聞く」「よく考えて」として「良き行動をする」ということが、何事にも求められているのではないのでしょうか。これからもそのことを伝えていかなければならないと思います。

それを昔から脈々と伝えてくださっているお寺さんが身近にあることは素晴らしいことと感じています。

編集後記

各地猛暑の今夏でしたが一転、残暑もなく、たちまち秋になってしまいました。

早いもので私たち浄土真宗門信徒にとって大切な「報恩講」法要をご案内する時期になりました。

宗祖親鸞聖人の遺徳をたたえ、その恩を報ずる法要です。法要の後には、婦人部の皆さんが心を込めたお齋でお待ちしています。お誘い合わせてどうぞご参拝ください。

(白田 記)



平成27年度早朝連続参拝記念写真 (27.8.2)

トピックス!

―岡谷市仏教婦人会連合会

学習会敬念寺で開催―

十月一日に当寺を会場に開催され、ご住職が「仏教讃歌」についてお話しをされました。その後コールガンダーの皆さんが歌三曲を発表しました。厳しい(楽しい)練習の成果が出て、美しい歌声が本堂に響き、参加者の皆さんから盛大な拍手をいただきました。次は報恩講で発表いたします。



本堂に美しい歌声が響く(27.10.1)



バケットに乗り撮影する千原会長

敬念寺ホームページ開設!

―年内公開を自途に準備中―

―IT化が進む社会環境に合わせ、ホームページを開設し情報発信するべく準備中です。トップページには寺全景写真(二頁参照)を載せませんが、八月五日にその写真を高さ十六Mのバケットリフト車から撮影しました。

No.5

シリーズ 住職さんといっしょ!

―古原正之氏のお孫さんたち―



(上)音々ちゃん(下)青君と凜玖君 父 源之助さんの17回忌の折 (27.10.11)

平成二十七年度

報恩講法要のご案内

―今年最後の法要です。おさそい合わせてお参り下さい―

◆日 時 平成二十七年十一月八日(日) 午前十時より

◆行事日程 (開始十分前には入堂ご着席ください。)

○受付 九時三十分〜九時五十分

○報恩講法要 十時〜十時四十五分

○コールガンダー・仏教讃歌の発表 十時五十分〜十一時

○法 話 十一時〜十二時

講師 本願寺布教使(東京都) 赤川 浄友 先生

「大悲無倦 常照我」

〜親鸞さんの教えに出遇って良かった〜

○おとき(会食) 十二時〜十三時

◆報恩講協賛 門信徒作品展・菊花・山野草展示他

